

姫路医療専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

【令和2年6月14日～6月18日実施】

令和元年度自己点検自己評価（平成31年4月1日～令和2年3月31日）による

評価委員集計

項目	点検項目	評 価		特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）	評 価		学校関係者評価委員よりの御意見
		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1	自己点検		出席委員集計(平均点数) 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1	4.0	
1 教育理念・目的・育人人材像	1-1-1 理念・目的・育人人材像は定められているか	4	教育理念・目的・養成人材像は、明文化・文章化されており、事業計画に目標・方法を具体化している。会議や研修等においては、理念等の徹底をしている。常に業界とのコミュニケーションを図り、産学協同での教育を心がけている。業界が求める人材像を明確にするとともに、教科目標・教育課程・授業計画等の策定に活用している。 事業計画では「地域連携」「業界との連携」を掲げ、特徴ある教育プログラムを構築し、変化する社会に対応するために、中・長期の事業計画を策定し、毎年見直しをしている。 今後は、教育をとり巻く環境変化や学生の質的变化に対応するため、地域における活動や業界との連携を深めつつ、カリキュラムにはキャリア教育の実践を盛り込んだ内容を加え、さらなる職業人教育の質を高めていく。	職業人教育を通して社会に貢献することをミッションとし、3つの建学の理念（実学教育・人間教育・国際教育）の実践、4つの信頼（学生、保護者からの信頼・高等学校からの信頼・業界からの信頼・地域からの信頼）を得られる様に学校運営の中で、各業界のニーズに即した人材育成を行っている。	4.0	○教育理念を定められ、地域や関係業界と連携を図り、職業人育成を教育計画にのっとり具現化しようとしている。 ○しっかりできていると思う。	
	1-1-2 育人人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか						
	1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか						
	1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか						
2 学校運営	2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	4	法人としては、事業計画・運営方針を定めることを重要視している。運営方針は学校事業計画書内に理念、目標、具体的な計画等と関連づけて明文化している。	事業計画の構成は、組織目的(普遍的に学校が目指す開校、組織運営の目的)、運営方針(中期的に組織として目指す方針)、実行方針(中期的な組織の運営方針を実現する為の単年度の方針)、定量的目標(入学者・教育成果<中退防止・国家試験合格数>・就職率等)、定性的目標(人材育成や組織のあり方等単年度目標)、実行計画(その方針を実現させる為の具体的な計画)、組織図、職務分掌、部署ごとの計画・スケジュール、意思決定システム、収支予算書(5ヵ年)で毎年作成している。	4.0	○運営方針や事業計画を定められ、さらなる組織運営が活性化されるよう努められている。また、学生一人ひとりへの取組や支援がされている。 ○事業計画を作成するだけでなく、作成した後で、振り返りやPDCも実行されている。	
	2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	4	毎年、業界のニーズに対応した事業計画・運営方針を作成するように努め、明文化された事業計画・運営方針を基に、学校運営に関わる全ての教職員が理解した上で各業務に取り組んでいる。				
	2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	4	運営のための組織図・職務分掌・会議の目的と主催者（決定権者）は事業計画に含まれており、会議・研修で共有している。 会議、委員会等の議事録は開催毎に作成し、関係者に共有をしている。 組織運営のための規則・規定を設け、運用に不足がある場合は、運営会議で検討し改正を行っている。				
	2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか						
	2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか		人事・給与に関する制度も就業規則に明示されている。				
	2-6-1 意思決定システムを整備しているか	4	意思決定システムは事業計画において明文化しており、諸会議の位置づけについても明記されている。意思決定を行う会議の進め方、結果の取り扱いを重視し会議毎に参加者は選抜され、その中で主催者に権限は委譲されている。				問題解決サイクル（問題発見⇒問題分析＋仮説立案⇒対策立案⇒実行⇒検証）を回していることが意思決定プロセスを効果的に活用できている。学校運営を円滑に進めるには、個人レベルでの今後更なるスキルアップが必要である。
2-7-1 情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っているか	4	システムは、学生・入学者・卒業生・実習先・就職先等の対象別、教務・就職・広報等の業務別、において幅広く導入されている。学校セクション毎の情報システム化、学生の情報の管理、その結果としての業務の効率化が推進されている。	業務の効率化と同時に、学生一人ひとりの情報を一元管理することにより、学生への様々な支援や求められる人材の養成や国家資格取得に結びつけることが出来る。その学生支援の精度を今後更に、高める必要がある。				

項目	点検項目	評価	自己点検	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）	評価	学校関係者評価委員よりの御意見						
		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1			出席委員集計(平均点数) 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1							
3 教育活動	3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	4	厚生労働省による養成施設指定規則に従い、教育課程の編成と実施方針を定めている。 教育指導要領、学生便覧において、学科ごとの到達レベルである「養成目的、教育目標、学年・学期目標」を学生に明示している。 毎年度、各学科の事業計画の中で、教育目標や業界が求める人材像を調査し、その見直しと確認を行っている。 業界ニーズに基づいた人材育成を行うため、常に業界の変化に対応するような情報共有を行っている。対人援助職としての技術、知識及び人間性を高めるため、早期年次からの見学実習や、学外実習へ向けての患者モデルによる学内実習など多彩な実践形式の授業を計画、実施している。 授業には、各業界の専門職の方々を講師に召還し、学生の状況を把握しての意見を頂き、臨床実習においても、その評価を教育課程編成に反映している。 キャリア教育は学校行事や課外活動においてその目的・目標を定めて実践している。 授業評価は専任教員に対し行ったが、全教員へは次年度に検討している。内容の緻密な検討を行い、より質の高い授業展開が出来る評価内容を検討し常に教員・講師との連携を深めフィードバックできる環境に持っていく。	到達レベルに達するため、入学前教育にて入学後の基礎学力向上を図る取り組みを行っている。また、学習のモチベーションを向上を図るために、若手の現職の方と接する機会を設け、将来像を明確化する教育プログラムも実施している。 「キャリア教育」については、学園グループで策定した「キャリア教育ロードマップ」に基づき、「専門職業教育」と「キャリア教育」を実践し、専門知識・技術のみならず職業人として必要な力を身につけるプログラムを実施している。	4.0	○入学前から入学後に必要な基礎的な学習を行い、フォローをされている。 ○教育についてよく考えられていると感じている。						
	3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか											
	3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	4			○学習面だけでなく、現場に出て必要な力の育成に努められている。 ○養成目的や教育目標、学校としての計画はできている。最終的には一人ひとりの2年間・3年間の目標と計画が大事でしょう。 ○学生さんの様子から、教員の方たちみなさんがキャリア教育を実践しているのがわかります。							
	3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか											
	3-9-3 キャリア教育を実施しているか											
	3-9-4 授業評価を実施しているか											
	3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	4					成績評価や単位認定の明確な規定が学則や履修規定により明文化されており、教員・学生ともに周知されている。進級判定会議を開き、議事録も記載保存している。授業では、研究発表の機会を設け、発表会・報告会で成果を把握できるようにしている。今後、専門職種団体の学会等での発表にも参加し成果を共有できるようにしていく必要はある。 取得目標資格は教育課程上明確に位置づけられており、国家資格取得の対策は、1年次から平常授業のみならず、国家試験対策講座等を行い、卒業時までのフローで計画をしている。また学力不足の学生に対しては個別面談から学生の到達度に応じて、補習や補講など様々な取り組みを実施している。	履修規定は各学期の開始時に、新入生・在校生オリエンテーションで学生に周知している。 国家試験対策については、滋慶学園グループのスケールメリットを活かし、学園が設置する国家試験対策センターの集約のもと、全国のグループ校が持つノウハウを共有し国家試験対策を講じている。定期的に模擬試験を実施し、成績のデータ化、蓄積による分析結果に基づいた受験対策ができる体制が整備されている。また、国家試験対策研修を行うことで担当する教員のスキルアップに努めている。また、学力の向上だけでなく、「専門職業教育」と「キャリア教育」をフローで行う教育の構築を目指し、国家試験に合格できる人間力も養っていく。自宅学習支援や国家試験対策問題を活用できるe-learningの学習環境も整っている。	4.0	○成績評価や修了認定基準は、授業計画、履修規定等を用いて学生に明示され運用できている。		
	3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	3										
	3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	4							○国家試験対策はグループはもとより、他校との連絡を密にしながら対策は講じられている。 ○グループの経験とデータの蓄積がたくさんおありになるので、それらを活用すれば結果が出ると思います。また、それをもっとアピールされたらと思います。			
	3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか											
	3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	4									各科ともに「養成施設指定規則」の規定に基づき、また、学科の到達目標を達成するために、その分野のスペシャリストである事が採用条件である。教員は学園の方針、養成したい学生像を理解し、情報の共有や問題解決につなげている。 教員は、専門の業界団体、学会に加入しており、それらの主催する学術大会、セミナー等への参加を奨励している。また、教育者としての専門性の向上においては、上記のFD活動は基より、学園グループ、神戸滋慶学園内での様々なレベルの研修会を実施している。 教員組織は目標実現のために学科内外の情報を共有し、チームワークを必要とされる。各学科会議、運営会議を中心に常に教員間の情報の共有化を図っている。	○学生が伸びるためには、現場から教員となって、現場とは異なる教員としてのスキルを高めていくことが必要だと思う。 ○教員や講師の評価は難しいと思いますが、質を高めていくために大事かと思いません。
	3-12-2 教員の資質への取り組みを行っているか											
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか												
						4.0						

項目	点検項目	評価	自己点検	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）	評価	学校関係者評価委員よりの御意見			
		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1			出席委員集計(平均点数) 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1				
4 学修成果	4-13-1 就職率の向上が図られているか	4	全員が専門職種として就職する体制を計画している。就職率の向上には、外部施設での実習やインターンシップが有効と考え実施している。将来の就職を見据え、臨床実習先の開拓も続けている。	2019年度は2年制の言語聴覚士専科のみであったが、在籍者全員が就職を希望し、求人先も十分に確保できた。	3.2	○実習先はもちろん就職先開拓にも力を込めておられる。			
	4-14-1 資格・免許の取得率の向上が図られているか	3	国家試験に対しては合格率100%を目標としている。1年次からフローで国家試験対策を計画している。また、学習面だけでなく、生活面、精神面の指導も行っている。	グループ校の同分野の教員で構成される教育部会に参加し、資格試験全員合格のための仕組み作りに注力している。また、学園グループの設置する国家試験対策センターが主催する研修を全教員が受講して指導力向上に努めている。2019年度は初めて国家試験を受験する学科があり、在籍者100%受験し、85.7%が合格した。(全国平均合格率 79.4%)	3.6	○国家試験は全員受験、全員合格を目指し取り組まれている。			
	4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	-	「卒業生の就職先での評価」は教育成果の評価基準のひとつであり、卒業生の就職先への聞き取り調査を計画している。業界の求める人材育成に努めていく方針で、卒業生も業界の一員として聞き取り調査を計画している。	2018年度開校で卒業生がおらず2020年度までは評価は得られない。	-	○卒業生は年1回必ず近況を学校に報告してもらおうシステムを作ってください。本人の把握だけでなく、後輩にとっても良い影響を与えると思う。			
5 学生支援	5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	4	入学時から就職準備のプログラムを実施している。卒業年次生への支援として、キャリアセンターを設置し、求職活動、求人情報の管理、就活セミナーの開催、個別就職活動支援、面接指導などを実施している。	2020年度に3年制学科の就職受験が始まる。2019年度末には就職に関するオリエンテーションをクラス毎に実施した。	3.6	○就職は、学生が学ぶ必要性を「自覚」する機会となる。			
	5-17-1 退学率の低減が図られているか	3	退学防止のために入学前から学生一人ひとりを見ることに重点を置き、学生の諸問題の早期発見と学習面、生活面のサポート体制を整備している。教員の教授力、サポート力の向上のための研修も行っている。次年度以降も、さらなる体制の整備、教職員のスキルアップを目指す。	滋慶学園グループが独自に開発整備した学生サポートアンケートを実施し、問題を持つ学生を早期に発見し対応することで中途退学防止へつなげている。滋慶学園グループは独自のカウンセリング研修を設けており、全教職員がカウンセリングマインドを持って、学生に対応できるよう研修を受け、資格を取得している。	4.0	○学生が少ないので、一人ひとりの相談に応じて、中途退学防止へつなげている。 ○入学した学生さん全員を国家試験までもっていき合格してもらおう、という考えで退学防止も大変努力されている。 ○先生が学生をフォローするだけでなく、学生同士でフォローし合えるような仕組みも作れると思う。			
	5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	4	学習面、メンタル面・健康面、経済的な問題などの相談を各所で受け入れる体制を整備し、有効に機能させている。必要な学生には、学内のスクールカウンセラーを配置し、カウンセラーと教職員がチームとしてアプローチし、問題の解決にあたっている。学生の多様性、個別性によるより一層の教員研修の必要性を感じている。留学生は現在在籍しておらず、今後整備が必要である。	学費支援システム・特待生選抜制度・在校生援助奨学金など完備している。 健康診断をはじめ、環境衛生委員会を中心に、感染予防にも努めている。	4.0	○体制が整備されて、また、先生も事務の方も、いつも早い対応して頂いて安心している。			
	5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか								
	5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	4	学生の経済的側面の支援は、研修を受けた職員を配置、事務局職員による個別相談の実施によって、事前に学費相談を受け、奨学金や学費ローン等アドバイスをしている。						
	5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	4	健康面、生活環境支援では、日常的に担任による欠席理由の把握、学生面談での聞き取り、健康診断後の再検査の必要性の周知など体制は整備している。学生の変化に気を配り注意している。						
	5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか	3	県外学生(需要)が少ないことから学生寮はないが、一人暮らしの学生への生活面のサポートも行っている。学友会活動として課外活動を支援する体制の整備はできているが、学生の積極的な参加が少なく次年度以降の課題である。						
	5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか	3							
	5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか	4	本校のミッションである職業人教育や就職、学生の資格取得実現のためには学校だけでなく家庭を中心とした学校外での学生動向も把握するように努め、問題解決にあたり、保護者との連携の強化を図っている。				入学直前に保護者会を実施、また、入学式後に学校代表、学科代表、教職員の紹介などの場を設け、学校の考え方、支援方針と体制をご理解頂き、保護者に学校との協力をお願いしている。	3.8	○普段の授業と先生方のことや本人への連絡事なども知ることができたらと思います。
	5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	3	本校の方針として「卒業後の自己実現、キャリア開発」のための卒業教育を実施する計画である。多職種連携ができるような学科を超えた、同窓会活動をめざし、卒業生・業界対象の講演会、研修会、勉強会を行う予定であり、在学中から学生に伝え、卒業後の学生と学校との関係構築を見据えている。				2019年3月に初めて卒業生を輩出した。キャリアセンターは卒業生のキャリア研鑽や転職等の情報提供及び相談窓口とした機能もあり、ケース毎に学科教員と連携して卒業生をサポートする。	3.4	○国家試験不合格の卒業生のフォロー体制が整備されている。 ○卒業後のキャリアマップづくりの観点で、大学との連携をすすめるとよいと思う。
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか									
5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか									

項目	点検項目	評価	自己点検	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）	評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1			出席委員集計(平均点数) 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1	
6 教育環境	6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備教育用具を整備しているか	4	実習においては、実際の現場で使われている設備を備えていることが不可欠である。実学教育に力を入れている本校の設備、施設はかなり高いレベルで整備されていると考えている。	各学科とも、厚生労働省指定養成施設基準を満たしている。ICT教育環境の推進のため全館WiFiを整備している。	4.0	○実学教育に重きをおかれ、設備・施設は高いレベルで整備されている。 ○施設は最新で清潔感があり医療機器も整備が行き届いている。
	6-23-1 学外実習、インターシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	3	建学の理念、実学教育・人間教育・国際教育のもと、カリキュラムに学外実習を計画的に配置している。開校年である2018年度は、各科とも見学実習、学外実習を実施し、言語聴覚士専科は臨床実習も実施、その流れと体制を整備した。2019年度はさらに2学科の臨床実習も開始された。また、「国際教育」を実施する計画であるので、マニュアル化・体制の整備をさらにしていく必要がある。	厚生労働省による各養成施設規定で定められている臨床実習のほか、1年次から学校独自で各学科ともに学外施設で行う見学実習プログラムを実施している。また、隣接する高齢者住宅、保育園での交流授業も実施している。2020年度からは姉妹校の神戸医療福祉専門学校三田校と合同での海外研修を実施する計画である。	3.4	○学外実習の学生を受け入れ、実習指導者会議も参加しました。体制やシステムは整備されている。
	6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか 6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	4	防災体制については、防火管理責任者を配置し、防災計画作成と防災訓練を実施した。また、災害時に備え、学生、教職員の安否をメールで確認するシステムも構築している。開校から5年間は学生数の増加が大きいため、防災訓練、安全管理体制は毎年見直す必要がある。	AEDの設置、及び教職員向け救急コーディネーター講習会を実施した。	3.8	○図書室の地震対策は姫路市の図書館を参考に整備されたらよいと思う。
7 学生の募集と受け入れ	7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	4	兵庫県専修学校各種学校連合会の規定に基づき、募集開始時期、募集内容を遵守している。また、学校案内・募集要項をはじめとする資料は、上記の定めたルールに遵守したものとなっている。高等学校への訪問で本校への理解を頂き、高等学校のご意見を直接聞いている。ホームページにおいても上記のルールを遵守したものになっている。	入学前の志願者も「キャリア教育」のキャリア設計段階ととらえ、本校職種に限らず幅広く職業理解や適性の発見が行えるようにオープンキャンパスを行い、合格後もモチベーションの維持・強化をするために、入学前教育では入学後の授業や学生生活、職業観を意識した形での教育を実施し、スムーズに専門教育に取り組める様している。	4.0	○高等学校との連携を密に図ろうとされている。 ○ホームページへは掲載されている内容も多い。 ○入学前のオープンキャンパスでは、将来目指す仕事について、とても丁寧に説明して頂いた。
	7-25-2 学生募集を適切かつ効果的に行っているか					
	7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	4	アドミッションポリシーを明確にし、ホームページでの掲載や学校説明会で説明をしている。学則を基にし、募集要項で明記した入学選考方法通り選考をしている。各回の選考に関しては、スケジュールを募集要項に明示し、決められた日程に実施している。また、選考終了後は選考会議により可否を確定する。面談結果、書類内容、選考試験が実施されている場合、その結果を踏まえ、将来業界で働くことに適正があるかを総合的に判断している。	将来の希望分野への適性をきちんと見極めるため、面談の比重を高くしている。結果として学力のみにとらわれない、モチベーションの高い学生確保に役立っている。また、A0入試を導入し、学力に捉われず、キャリア教育の一環として、目的意識ややる気を重視した入学選考を継続する。		
	7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか					
	7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	4	学納金は、各学科の教育目標達成を目指した学校運営に必要な金額であり、人件費（講師、教職員）、実習費、施設運営費等に当てられている。毎年、各学科において教科書・教材及び担当講師の見直しを行っており、諸費用の無駄な支出をチェックしている。また、入学辞退の取り扱いについては、募集要項に明記して対応している。	入学以前の募集要項や説明会において、事前に年間必要額を明示しているため、保護者に関しては年間支出計画が立てやすい。また、高等学校在学者に対しても、日本学生支援機構の予約採用のアナウンスや教育ローンの案内をするなど、学費負担者の立場にたったのアドバイスを実施している。		
7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について適正な取扱いを行っているか						
8 財務	8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	4	厳しいチェック及び評価が行われ、中長期的に財務基盤は安定し、本校の学校運営も安定していると考えている。5ヵ年計画に基づいた収支計画は中長期的な視点で物事を考えることができ、財務基盤の安定につながっている。	安定した運営を継続的に行うため、各学科における1学年の募集定員の充足率100%を目指し、退学率の低減を図る。2019年度、2020年度とも入学生の状況は5ヵ年計画のほぼ目標どおりである。	4.0	○定員充足100%に努め、広報や教育充実に取り組まれている。
	8-28-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか					
	8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	4	5年を見越した収支計画も作成しているが、単年度予算についても、学校、学園本部、理事会・評議員会でチェックしているので適正な執行管理になっているものと考えられる。	予算→四半期予算実績対比→決算という流れの中で、収支計画が実現可能なものとなり、財務基盤の強化につながっている点が特徴として挙げられる。		
	8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか					
	8-30-1 私立学校法及び寄付行為に基づき、適切に監査を実施しているか	4	監査報告書は適正な計算書類を作成している旨の監事からの意見が述べられている。監査を有効に実施してもらうために、証憑書類の整理、計算書類の整備、各種財務書類の整理整頓に努めている。	私立学校法上義務付けられている「監事による監査」を受けているが、それに加えて、補助金対象ではない当学校において「公認会計士による監査」も受けている。これによって適正な計算書類の作成とその信頼性の確保に努力している。		
8-31-1 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか	4	財産目録、貸借対照表、収支計算書、監査報告書など財務情報公開の体制整備は出来ている。	当法人の財務情報公開に関しては、常務理事が統括し、事務局長が責任者として担当する。また、事務担当者を置いて現場対応を行っている。＜公開書類＞1. 財産目録2. 貸借対照表3. 収支決算書4. 事業報告書5. 監査報告書			

項目	点検項目	評価	自己点検	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）	評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1			出席委員集計(平均点数) 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1	
9 法令等の遵守	9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	4	法令や設置基準の遵守に対応する体制作りは、整備されている。カリキュラムや教員要件はしっかりチェックし、教職員の啓蒙として、法令や設置基準を遵守に対する研修を実施している。	監事による毎年の監査に際して、業務監査の対象としてコンプライアンスの実施状況についても監査してもらっている。	4.0	○自己評価は実施され公表されている。学校関係者評価委員を整備され、評価を実施した。この後公開される予定とのこと。教育情報も公開されている。
	9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	4	学内で個人情報保護規定を定め、個人情報保護委員会が中心となり運用している。教職員に対しては、個人情報保護責任者は認定CPOアカデミック講座を通して、学校等における個人情報管理責任者として必要となる知識を習得。教職員は、認定CPAアカデミック講座を通して学校等における個人情報取り扱い従事者として個人情報を取り扱うために必要となる知識を習得した。それぞれ更新講習に取り組んでいる。学校は個人情報の集積であるとも言える。教職員学生においては、更なる理解を深め、定期的な研修を開催し、意識を高めていく必要がある。	外部機関の「TRUSTe」より国際規格の認証を獲得し、ホームページ上に明記している。学生と講師に対しては、オリエンテーションなどにおいてITリテラシーについてや個人情報保護について冊子を用いて伝えている。		
	9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	3	2018年度開校年度の自己点検・自己評価を2019年度から開始し、結果をホームページに掲載している。2020年度からは学校関係者評価委員会を組織・開催し、評価に基づき短期的・中長期的課題の整理を行い、改善に取り組む。結果はホームページで公表する。	下記HPアドレスにて情報公開している。 http://www.kmw.ac.jp/about/joho		
	9-34-2 自己評価結果を公表しているか					
	9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか					
	9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか					
9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	3	教育情報、教育活動はホームページに掲載しており、情報公開は行っている。	2019年度は1・2年生の在籍で、最終学年の授業、行事、就職、資格の実績等の項目は掲載できていない。			
10 社会貢献・地域貢献	10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3	職業教育を通して社会に貢献することが本校の使命であり、学校の理念「4つの信頼」の中で、地域からの信頼を掲げ、社会貢献、地域貢献に積極的に取り組み、地域の方々からの信頼を得られることを行動の指針としている。学校行事の学園祭は地域貢献を目的として行った。医療系専門職の教育は地域の医療・福祉活動に参加している。キャリア開発の一助として高校での医療系職種説明会等にも講師を派遣している。「建学の理念」に国際教育を掲げており、グローバルな視点と感性を持ち、外国の方たちともコミュニケーションが取れる医療人材になることを目的として「コミュニケーション英語」の修得や2年次には「国際教育」の教育プログラムも実施している。	学園祭「リコルス祭」は、地域の多世代の方が「健康・生きがい・キャリア開発」を体感できる内容で、学生の運営委員会が主催し、隣接する高齢者住宅・保育園・フィットネスクラブ等と協同で開催した。兵庫県専修学校各種学校協会主催による「トキメキ仕事体験」事業にて高校生のキャリア意識促進のための体験学習を本校で開催。環境問題に対する取り組みについて、EV利用抑制の「2ステップUP3ステップダウン運動(節電)」を推奨するなど、エネルギー問題の意識づけをしている。国際教育を推進する一環として学園グループ主催で「英語スピーチコンテスト」を毎年開催し、本校言語聴覚士科1年生が参加約70校中ベスト16に入る賞を受賞した。	3.4	○地域の交流活動には積極的に参加するよう努められている。 ○昨年度は地域の活動に参加して頂いたが、今年度もさらに学生さんの学修にもなる地域活動を一緒に行っていただきたい。 ○ボランティアや地域活動を学生のうちにしておくことは、「社会貢献」という意味を理解することにつながるので大事だと思う。
	10-36-2 国際交流に取り組んでいるか					
	10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	3	学生には地域や施設でのボランティアは積極的に推奨している。2019年度は1、2年生のみの在籍で限られた範囲での活動になっている。次年度以降も計画的な教育と、積極的なボランティア活動を推進して、全ての学生が、ボランティア精神を持って、主体的に活動できるような教育プログラムを構築する。	課外活動でのボランティア部の活動や、地域の交流活動に学生達が参加するなど活動の機会は増えている。例年実施している姫路市主催「姫路城マラソン」医療ボランティア活動が、新型コロナ感染拡大防止のため中止となった。		